

# 特集 激動2008年 —

## そのとき当社グループは、そして従業員は

私たち  
一人ひとりの  
CSR活動

当社グループにとって2008年度は、原油価格の高騰に始まり、世界的不況の直撃、また、地球温暖化への関心の急激な高まりなど、激動ともいえる1年でした。このように社会が激しく変わろうとも、電気やサービスを安全に安定してお届けするのが、当社グループの使命です。従業員はこの使命を果たすため、業務を遂行するなかで知恵を絞り、経験を活かし、変化に対応してきました。こうした取組みの一つひとつがCSR活動につながっています。

## 燃料を調達する

### 安定的な電力供給のための燃料調達を担う

激動するエネルギーマーケットの荒波のなかでも、安定的に電気をお届けする——それが私たち関西電力の思いです。そこで、燃料調達部門では、常に将来を見据えた施策を着実に進めています。例えば、西オーストラリア州の「ブルートLNGプロジェクト」への参画やLNG輸送船「LNGエビス」の保有。これによって天然ガスの生産から輸送、受入れまでの一貫体制が確立でき、一層の安定的な調達と電力需給変動への柔軟な対応が可能になります。

米国産標準油種（WTI）の価格が2008年7月に史上最高値を記録した後、わずか5か月で約4分の1に急落したことに象徴されるように、エネルギーマーケットは急激に変化し、加えて、

エネルギー生産国の資源ナショナリズムの動きが活発化するなど、価格・需給とも激動の時代を迎えています。こうしたなかで、2008年度は、中長期に加えて短期での契約や、調達先をこれまでより広げるなど、新たな対策を柔軟に講じることで、逼迫した状況を切り抜けました。

これからも、新たなプロジェクトに参画するなかで、また、日常の業務に取り組むなかで、知識をたくわえ、取引先の方々とパートナーシップを築き、より情報源を増やすことによって、激動の荒波を乗り切ってまいります。

#### 燃料調達



燃料室  
燃料ソリューショングループ  
円座 葉子

### LNG船の保有で磨いたスキルを危機に活かす

2008年度は「LNGエビス」の竣工検査から輸送契約までを担当しました。LNG輸送船の保有は、当社にとって初めてのことで、前例がないだけに、LNG船用語集を片手に資料を読み込み、取引先の協力を得ながら知識を習得していきました。常に心がけたのは、安全・安定を最優先とする当社の視点で考え、判断し、行動することです。例えば、船社・造船所に任ずることができる船上タンクの検査も、垂直梯子で底まで降り、船主として健全性確認のため、立ち会いをおこないました。

こうして迎えた5月の命名式では、出席者の方々のLNGエビスに託す安定調達への強い期待に接して、自分の責

任を痛感。また、処女航海から戻ったLNGエビスからLNGが堺LNGセンターのタンクへと荷役されるようすを見て、自分の業務が電気の安定供給に深く関わっていることを実感しました。

そんな私が、仕事に行き詰ったときにいつも思い浮かべるのは、営業所勤務でお会いしたお客さまのこと。とくに「円座さんの提案を聞き、オール電化にして本当によかった」と言ってくださった方たちは忘れられません。こうしたお客さまの期待を裏切らないためにも、今後も知識と経験をたくわえ、どのような危機が来ようとも燃料の安全かつ安定的な調達を確保したいと思います。

LNG輸送船「LNGエビス」



## 電気をつくる

### 効率のよい発電で低炭素化への期待に対応

2008年は、京都議定書の第1約束期間（2008～2012年）がスタートし、日本はこの間にCO<sub>2</sub>排出量を1990年に比べて6%削減しなければならないことなどから、低炭素社会への関心が急速に高まった年となりました。

そのようななか、当社は低炭素社会の実現に向けて2章でご報告するような新たな方針を打ち出し、また、各発電所では、それぞれの可能性を活かした計画の実現や推進によって、みなさまの期待にお応えするよう努めました。

具体的には、2008年8月に石炭火力の舞鶴発電所1号機に

おいて木質バイオマスの混焼運転を、2009年4月にコンバインドサイクル方式による堺港発電所新1号機の運転をそれぞれ開始。そのほか、堺市臨海部ではメガソーラー発電計画が、淡路島では当社グループ会社による風力発電計画が着実に進行しています。

また、こうした新たな取組みだけでなく、火力発電の熱効率低下に対する速やかな改善や、原子力発電や水力発電の安全・安定運転の維持など、各発電所における従業員の日々の努力の積み重ねによっても、低炭素社会の実現をめざしています。

#### 火力発電



堺港火力建設所  
機械課  
大西 永二

### 発電所の順調な建設で低炭素化に貢献

堺港発電所のコンバインドサイクル方式への更新に携わっています。2008年度は、新1、2号の試運転で性能確認などを担当し、建設中の3～5号機については、現在も引き続き工程管理などをおこなっています。更新工事によって熱効率は既設の約41%から約58%に高まり、同量の電気を生み出すときに発生するCO<sub>2</sub>は約30%削減されます。

こうした環境負荷が少ない発電所の建設を期日通り安全に完了させることが私の役割です。そのため、工程進捗の把握とともに、安全作業や品質チェックをおこなっています。例えば、作業用足場などに危険な要素がないか、あるいはメーカーの方とのコミュニケーションを通じて現場に安全や衛生上の問題がないかなどを確認するようにしています。また、試運転に際しては、設備の信頼性

の確保や熱効率を0.1%でも高めるために、メーカーの方々と議論を重ね、数千個以上のチェック項目の一つひとつ確認しました。こうした業務のなかで印象に残っているのは、メーカーの指導員の方が自社の製品に誇りを持ち、大切に扱われる姿。その強いマイブランチ意識からは多くのことを学びました。こうしたメーカーさんとの関係も含めて、堺港発電所で得た多くの経験は詳しく報告書にまとめ、今後、更新が決まっている姫路第二発電所に伝えていきます。

新設堺港発電所



用語解説

●木質バイオマス: バイオマス燃料のひとつ。資源管理された森林木材や廃材を活用し発電所等の燃料に使用することで、化石燃料の使用抑制を図る。当社では、舞鶴石炭発電所で木質ペレットを使用し、石炭の使用量を抑制している。

●コンバインドサイクル方式: → P42  
●メガソーラー: → P37

●資源ナショナリズム: 自国に存在する資源を自国で管理・開発しようという動き。資源産出国による自国の天然資源に対する所有権を強く意識する考えが、民族・国土を重視するナショナリズムに例えられている。  
●LNG: → P17 ●京都議定書: → P28  
●低炭素社会: → P28



## 職場や地域の信頼づくりで安全運転をフォロー

発電時にCO<sub>2</sub>を排出しない原子力発電は、地球温暖化防止にとって重要な役割を担っています。そこで、発電所の安全・安定運転のために、私に与えられた役割を日々、果たすように努めています。例えば、美浜発電所では、安全文化の醸成には協力会社の方々とコミュニケーションが重要との観点から、さまざまな活動を続けています。夏祭り「ふれあいフェスタ」もその一つで、2008年度も協力会社の方たちといっしょにお店などを運営しました。また、マイブランチ意識の共有につながるよう合同でタービン

建屋などの清掃活動も実施しています。

私は、こうした活動に携わるほか、次世代層教育の一環として地元の小中学校を訪問し、エネルギー環境教育の出前教室を続けています。とくに2007年度は小中学生向けの副読本とワークシート、2008年度は町内の先生向けの指導書の編集にも携わりました。このように、子どもたちにエネルギーや地球環境問題について学ぶ機会を提供することもまた、低炭素社会の担い手としての重要な役割だと考えています。

## 原子力発電



美浜発電所  
所長室  
森下 誉代

## 新エネルギー



関電エネルギー開発(株)  
新エネルギー部  
山本 達也

## 自然改変が少ない風力発電を1kWhでも多く全国に

2009年1月、関電グループ初の風力発電事業を兵庫県淡路市北部で実施することを発表しました。

風力発電はCO<sub>2</sub>を排出しない発電ですが、翼の直径が80mという大きな風車を建てるには、輸送路だけでなく、広い敷地も確保しなければなりません。そこで当社は、可能な限り森林伐採など自然改変が少ない場所を選ぶとともに、長期間にわたって環境調査を実施し、周辺への影響が小さいことを確認しました。

また、淡路島は渡り鳥のルートになっているため、鳥類調査や渡り時期を考慮した工程検討のほか、専門調査会の設置といった取組みもおこない、環境保全に万全を期しています。景観にも配慮し、「あわじ花さじき」など観光地からの

眺望を損なわないよう風車の配置にも気を配りました。

検討初段階から幾度となく現地調査をおこなった淡路風力計画がようやく着工目前となり、特別な思いがあります。

今後は、淡路風力発電所の着工や運転開始をめざすとともに、全国大で新規案件の開拓を推し進め、風力発電の電気を1kWhでも多く全国にお届けしたいですね。



風車を入れたシミュレーション画像を作成し「あわじ花さじき」からの眺望を確認

## 電気を送る

### 電気を安定してお届けする確かな技術力

系統運用部門にとって2008年度は、景気の激しい変動や気候によって、発電量の調整にこれまで以上に追われる1年となりました。例えば、上期は好調に推移する景気とともに需要が増大。ところが原子力発電の点検期間の延長と水力発電の渇水で供給力が低下。需給が逼迫しました。

こうした激動の1年を克服できたのは、部門間や協力会社などとの連携と、なにより各従業員の安全・安定供給に対する強い使命感でした。

一方、送電部門は2008年度も、高まる地球環境問題への関心に応えようと奮闘した年でした。例えば、CO<sub>2</sub>の排出係数が低い電気の安全・安定供給こそが、その期待に応えられるのだと、点検業務や送電設備の更新を着実に進めました。しかし、9月には鉄塔事故が発生。このことを当社グループは厳粛に受け止め、社内規則の改正や潜在リスクの抽出、技術力のさらなる向上など、5項目からなる再発防止対策を策定し、その徹底した実施にグループ丸となって取り組んでいます。

※鉄塔事故の詳細とその再発防止対策についてはP19をご覧ください。

## 系統運用



電力流通事業本部 中央給電指令所  
友金 貴典

## 他部門との迅速な連携で夏を乗り切る

中央給電指令所では、時々刻々と変化する電気の使用量に合わせて、発電量を調整し周波数を60Hzに安定させています。あらかじめ、年間、月間、週間、翌日の計画を立て、高効率の発電所を電力系統全体とのバランスを見ながら優先させるなど、燃料の削減を追求することで、低廉な電気を届けるとともに地球環境にも貢献しています。

2008年の夏は需給が逼迫しましたが、

これまでに着実に築いてきた他部門や各発電所との連携によって、いつもと変わりなく安定して電気を届けすることができました。

私は、社内ルールや業務体制の見直しを通じて、他部門との連携が綿密かつ迅速にできるようにしています。どのようなくとも、電気を安定してお届けするためには小さな改善から進めることが重要ですから。

## 低炭素社会の実現を電力マンの使命感で支える

電力の安全・安定供給が低炭素社会の実現につながるのだと、2008年度も送電線の建設や保守、点検などに取り組みました。とくに点検作業には異常を見落とさない高い技術力が求められます。そこで私はこれまでマニュアルやビデオを制作し、指導、育成に尽力してきました。そのほか、新技術の開発にも努めています。

なかでも「鉄塔鋼管部材内面塗装工法」は、鋼管部材の内面を塗装

することで錆の発生を防止、鉄塔の寿命を延ばします。

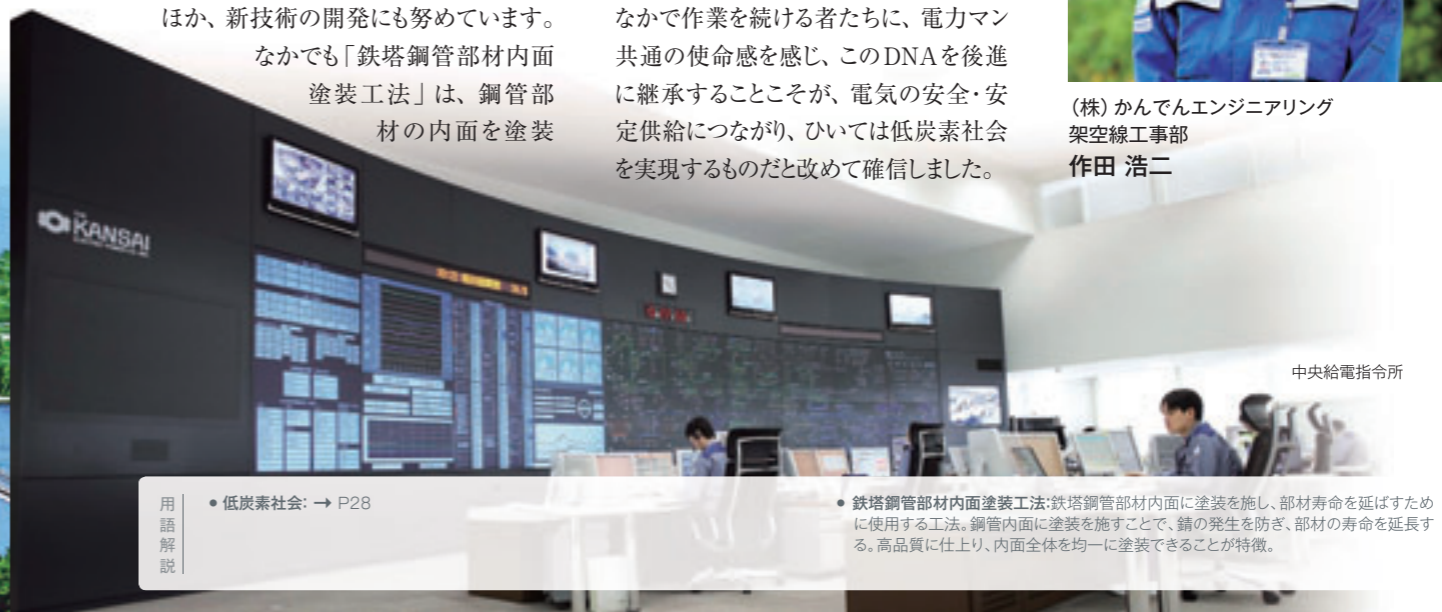
こうした業務のなかで、いまでも忘れられないのが、2004年のセサナ機による高圧線の断線です。関西電力、協力会社、当社が三位一体となり早期復旧に努めました。「1秒でも早く復旧を」と凍てつく川のなかで作業を続ける者たちに、電力マン共通の使命感を感じ、このDNAを後進に継承することこそが、電気の安全・安定供給につながり、ひいては低炭素社会を実現するのだと改めて確信しました。

## 送電



(株) かんでんエンジニアリング  
架空線工事部  
作田 浩二

美浜発電所



中央給電指令所

用語解説

● 低炭素社会: → P28

● 鉄塔鋼管部材内面塗装工法: 鉄塔鋼管部材内面に塗装を施し、部材寿命を延ばすために使用する工法。鋼管内面に塗装を施すことで、錆の発生を防止、部材の寿命を延長する。高品質に仕上り、内面全体を均一に塗装できることが特徴。



## 電気を届ける

エネルギー営業



和歌山営業所  
和歌山お客さまセンター  
皆越 静香

## 事業を支える

人事



滋賀支店  
支店長室 人材活性化グループ  
伊吹 和浩

## 資金調達



経理室  
財務グループ  
川崎 勝彦

## 身近な省エネ方法や電化の提案で環境問題に対応

2008年度は、省エネ法が改正されるなど、私が担当する法人のお客さまも環境問題に強い関心を持たれた1年でした。ボイラーや空調設備の電化に関するご相談も多く、その際は、設備費や電気料金を算出してご紹介したり、グループ会社と連携して対応させていただくほか、配管のテーピングなど、手軽な熱効率の向上方法などをお伝えしました。その一方で、「厨房レボリューション(革命)」と名付けた活動を展開。スチームコンベクションなどの厨房機器を活用

した実演セミナーを開催し、厨房環境をよくしたいとおっしゃるお客さまのニーズに対応。栄養士の方から「勉強になったわ」と、お褒めの言葉をいただきました。

こうした営業活動で私が大切にしているのが、お客さまとの信頼関係です。訪問や電話でのコミュニケーションを心がけているのですが、ときにはお客さまが自分の夢をお話しくださることも。小さなお弁当屋さんが食品工場になっていく。そんな過程をそばで見守り、応援できること、これが私の大きなやりがいです。

## 働きやすく働きがいのある職場づくりを推進

当社では、従業員がお客さまの期待に応え、それぞれの職務に前向きに取り組むことができるよう、安心して働ける職場環境の維持など「人を大切に経営」が実践されています。なかでも2008年度は「一人ひとりの成長を支えるしくみづくり」をめざして人事制度が見直され、2009年度から新たな取組みが導入されました。

私は滋賀支店において、これらの人事制度の運用に携わっています。当社では、「働きやすく、働きがいのある職場づくり」をめざした取組みを進めており、私自身も従業員一人ひとりの能力が最

大限に活かされる職場づくりを意識し、日々の業務を遂行しております。例えば、仕事で悩みを抱える従業員について、所属長とともに解決策を考えることもあります。その後、所属長から従業員がやりがいを持って活き活きと働き出したという話を聞くと、嬉しく思いますし、自分の仕事にやりがいを感じます。

これからも引き続き、当社がすべての従業員にとって働きやすく働きがいのある職場になるよう、努めていきたいと思

## 起債準備を慎重に進め不況時にも社債を無事発行

当社は、堺港発電所の更新工事など環境負荷低減や、電気の安全・安定供給のために、積極的な設備投資をおこなっています。こうしたなか、2008年度は燃料価格の高騰などで必要な資金が急増しました。ところが昨年秋のリーマンショック以降、金融市場が混乱。私は社債発行による資金調達ができなくなるのではと危機感すら持ちました。事実、社債の発行金利の上乗せ幅であるスプレッドが、過去最大値にまで拡大し、それだけ利率を上げなければならないような状況でしたが、起債までの準備をこれまで

以上に慎重に進めることで、無事に発行することができ、必要な資金を調達することができました。

電気の安全・安定供給という使命を果たすためには、資金を安定的に調達しなければなりません。そのためには、なにより投資家のみならず信頼され続ける関西電力でなければいけません。私は、これからも金融市場に対しての知識を増やし、投資家のみならずご納得いただけるようフェアな起債をおこない続けていくことで、高い信頼を築いていきたいと思

お客さまへ電気をお届けするとともに、お客さまの満足度を高めるため、グループ一体となって時代の変化に対応してきました。

## 暮らしを支える

通信



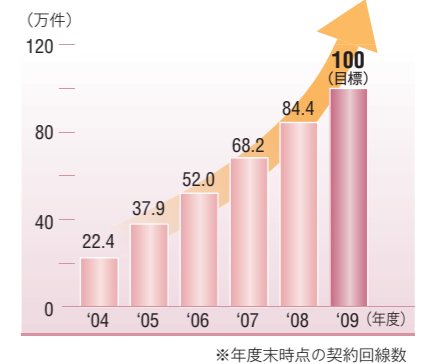
(株) ケイ・オプティコム  
サービス開発推進室  
木山 貴夫

## 新たなサービスで「お客さま満足 No. 1」を獲得

当社は、光ファイバーによる「eo光ネット」「eo光電話」「eo光テレビ」のトリプルプレイなどにより、ご契約者数が純増。2009年度末には加入者数100万件突破をめざしています。しかし通信業界は、2008年度もサービスの低価格化や多様化などによって競争が激化。こうした状況のなか、当社はお客さまの満足度をさらに高めようとして新サービスの開発を積極的に進めています。そのなかで私が担当したのが、9月に販売を開始した「eoモバイル」です。外出先でもブロードバンドインターネットを楽しみたいというお客さまからのご要望の声もあり、少しでも早くご提供したいという思いで、短期間での開発をめざしました。ところが、事業者間交渉や業務課題を短期間で解決する必要があり思ったように進みません。そこで、「成功させるのだ」という熱意を

各部門のメンバーと共有した結果、だいに一体感が高まり、プロジェクトの立ち上げから3ヵ月後には、計画通りに販売を実現。まさしく、ケイ・オプティコムの総合力が発揮できた瞬間でした。こうした経験をもとに、今後もお客さまの満足度が高まるようなサービスをタイムリーに開発し、ご提案していきたいですね。

### ■ FTTH サービス



## 生活アメニティ



(株) 関西セキュリティ・オブ・ソサイエティ  
(関電SOS)  
営業部  
中島 大輔



お客さま宅の安全・安心を絶え間なく見守るのは監視センター員

## お客さま目線に立ち、お客さま満足の向上を図る

当社がご家庭の「安心」を守るホームセキュリティサービスを提供しています。2008年度は未曾有の不況によって社会全体の購買意欲が低下し、セキュリティ市場全体も伸び悩みました。私の担当する業務は主にご契約いただいているお客さまからのお問い合わせへの対応ですが、厳しい社会情勢であるからこそお客さまからより強い信頼をいただくことが必要との思いで日々の業務にあたっています。

ホームセキュリティは万一のときに備えたサービスですから、24時間365日一瞬たりとも気を抜くことはできません。絶えずお客さまの立場に立って接することにより、お客さま満足の向上に努めています。ときにはお叱りを受けることもございますが、お客さまの一言ひと言を大切に心で受け止め、よりよいサービスにつなげたいと考えています。お客さまが当

社にご加入いただいている理由の多くは、「関西電力グループだから信頼できる」ということ。「さすが関西電力SOS! 契約してよかったわ」と心から喜んでもらえるような、お客さまと「安心」を共有できる企業になりたいと思っています。そして、お客さまにご支持いただき地域社会に貢献し続けることがCSR活動の源泉になるものと考えています。



2008年12月に発売の「SOSマルチリモコン」は、お客さまの声から生まれた新商品